

「残業×過労死×ハラスメントデスマッチ地獄」

—初稿—

2025/3/20

脚本 太郎

〈人物表〉

東堂 歩 (57)
松本 忍 (40)
春野 紡 (20)

倉庫作業員
倉庫管理主任
倉庫作業員

1. 倉庫（昼）

背の高いラックや積み上げられたダンボールが並んでいる。

怒声が飛び交う中、皆せわしなく働いている。

春野紡（20）、泣きそうな顔で段ボールを運んでいる。

そんな中ひときわ大きな声で、

松本の声「何回言わせんだよ！」

春野、ビクツとなって立ち止まる。

声の方を見る。

積み上げられたダンボールが激しく倒れる。

松本（40）怒りの表情で片足を挙げている。彼がダンボールを蹴ったのだ。

すぐ近くに東堂歩（57）、神妙なアホ面で立っている。

東堂「何回でしたかねえ」

東堂、指で数え始める。

松本、身体をひうる早生、

松本「何でできねえの？」

東堂「何ですかねえ……申し訳ありませんねえ」

松本「おっさんさア……できないで済むのは学生までなんじゃないんすか？」

東堂、考え込む表情。

東堂「どうしろと？」

松本「死でしょ」

東堂「死？」

松本「ちよつとでも申し訳ないと思ってるなら死なない」と

松本、胸ポケットからカッターナイフを取り出す。

東堂に差し出し、両目を限界まで開き、

松本「男は黙って切腹っしょ」

春野、ハラハラした様子で二人を見守っている。

東堂、困惑気味に、

東堂「そんなことする義務ないし、」

首を傾げ、

東堂 「そもそもそんなことやってる時間あるんですたっけ？」

松本 「ねえけどてめえのせいだろうが」

東堂、呆れ笑い。

東堂 「それは申し訳ないけど今時間無駄にしてるのはあなただ
なあ、って」

松本、ダンボールを蹴り崩す。

静かな表情で東堂を睨みつけ、

松本 「もう良い……アンタの尊厳、人格、人生、全部否定して
やる」

松本、大きく息を吸う。

男 A 「まずい、松本さんのアレが、」

男 B 「皆耳を塞げ！」

何人もの人々が耳を塞ぐ。

松本、東堂を指さし、凄まじく大きな怒声で、

松本 「自害しろ！」

声が倉庫内を震わせ、ダンボールの山を崩し、
走行中の二台のフォークリフトが制御を失い、
壁に激突する。

大勢その場に伏せている。

男 A 「また職場で人が死ぬのを見るのか……」

伏せている春野、恐る恐る顔を上げる。

東堂、気の抜けた顔で堂々と立っている。

松本、愕然と、

松本 「効かない？」

東堂 「ジガイってなんでしたっけ？」

松本 「冷静沈着な……バカって居るのか……」

周りの人々も愕然とする。

松本、気を取り直すように東堂を指さし、

松本 「ジガイってのは……自殺しろってことだよ」

東堂 「何故？」

松本 「お前が、我々人類の足を引っ張って、未来を奪おうとし
ているからだ！」

東堂、呆れ笑い。

東堂 「いや、自分が訊いてるのは」

呆れ笑い。

東堂 「何で『自殺』って普通に言えばいいところを」

呆れ笑い。

東堂 「わざわざ『ジガイ』なんていう一般的じゃない言い回しをしたのかなあ、って」

呆れ笑い。

東堂 「自分、疑問ですかねえ。格好つけたんでしたっけ？」

呆れ笑い。

松本、怒りのあまり震えながら失禁。

ズボンに尿のシミが広がる。

東堂 「あと自分が死ななきやいけない理由もやっぱり分からな
いですかねえ」

東堂、腕を組み、神妙なアホ面で何度も頷く。

松本 「上げ足取ってんじゃねえぞ生存無資格者が！」

足元のダンボールを蹴り上げる。

松本 「シンギュラリティングな超高性能バキバキAIが九
千憶年考えたってためえの死が客観的な善であるっつー
以外の結論出ねえよ」

蹴り上げられたダンボールを殴り落とす。

松本 「それが人類全体の利益でそれを願うのが人類の総意なん
だよ」

落ちたダンボールを踏み潰す。

松本 「ためえが人類に貢献するにはなるべく早く、できる限り
苦しんで死ぬ以外にねえんだよおっ！」

松本、肩で息をする。

東堂、神妙な顔で考え込み、

東堂 「それ、全部あなたの主観でしかないのに、何で人類の総
意ってことになるのかなあ、って」

松本、髪を掻きむしり、

松本 「俺があ！」

大量に引っっこ抜き、

松本 「こん職場でえ！」
髪をばらまく。

松本 「一番偉いからだよおッ！」

東堂 「あなたがここで一番偉いからって、」

東堂、辺りを見回し、

東堂

「別にここにいる人たちの意見を勝手に総括できるわけじゃないなあ、って。一人一人独立した人間なんですから」

松本、激しく身体を痙攣させ、

松本

「うるせえっ、俺は神だああ！」

東堂、呆れ失笑。鼻で。

松本、白目を剥き、

崩れ落ちる。

春野、茫然と呟く。

春野

「凄い」

春野の目が羨望に染まる。

春野

「神だ」

倉庫内に歓声が起きる。

東堂、困惑顔。

松本

「静まれ糞尿共！ てめえらも自殺させるぞ！」

倉庫内、静まり返る。

松本

「まだ俺は負けてない。負けるわけにはいかないんだ」

松本、足を震わせながら立ち上がる。

松本

「俺は、アンタみたいな社会を舐めた人間が許せなくてパ

ワー・ハラスメンターになったんだから」

松本、東堂に指を指す。

松本

「アンタに残業ハラスメントデスマッチを申し込む。言葉

の暴力の恐ろしさを心の芯にまで思い知らせて、徹底的

に自傷労働をさせてやる」

どよめきが起こる。

東堂、困惑気味に首をかしげ、

東堂

「分からないけど、残業代出るならやる所存ですかねえ」

松本

「アンタがあ！」

東堂、不思議そうに自分を指さし、

東堂

「自分が？」

松本

「アンタという名の社会の排泄物が、」

東堂

「自分、名前『アンタ』じゃないなあ、って」

松本 「生きているという理不尽と、俺はあ、全力でえ、戦って
いくう！」

松本、激しいファイティングポーズを決める。

2. 倉庫(朝)

松本、首を吊っている。絶望しきった死に顔。
作業員たち、呆然と松本の死体を見上げている。

東堂、ラックの前で、唯一平然と作業をしている。

終